

〈基となる事例〉

「収穫祭をしよう」

【活用事例】 「樽でできたよ！さつまいも」

～畑のない住宅街エリアでの実践～

事例活用の理由

- 園庭でも畑と同じように収穫したり、収穫を喜び合ったりする体験ができればと考える中で、収穫する際のねらいについて、再確認するための資料とした。
- 『収穫祭をしよう』において、子供たち同士が共通のイメージをもち、同じ目的に向かって活動する楽しさや達成感を味わうという本園におけるねらいを今回の活動に取り入れたいと考え本事例を活用した。



保育者の願い（ねらい）

- 園内で栽培できる環境を整え、身近に栽培物の成長を見たり、気付いたりできるようにし、収穫への期待がもてるようにする。
- みんなで収穫することの楽しさや喜びを味わう。
- 小学校での生活が円滑に進むように約束や決まりごとを守ったり、仲間と協力して取り組んだりできるようにする。

アレンジした点・工夫した点

- 近くに畑のない住宅エリアにある園だが、畑と同じような収穫体験が園庭でもできればと考えた。工夫として、バケツよりも大きなつげもの樽を複数使用して、さつまいもの栽培を行い、グループごとに収穫できるようにした。



これまでの経緯

- 幼児が身近な植物への関心を高めるように園庭には季節ごとに花を咲かせ、実がなる木が植えられている。毎年、様々な植物を育てている。自然の変化を感じながら小さな種が成長し、たくさんの花を咲かせることや一つの苗から稲やたくさんの野菜が収穫できる過程の中で自然への愛情や畏敬の念をもつように取り組んできた。



## 当日及びその後の活動の様子

- さつまいもの絵本の読み聞かせを行い、さつまいも掘りへの関心を高める中で、想像力を刺激したり、聞く力を身につけたりする。
- 園庭に用意された、いも樽の前にグループ（5～6名）ごとに順番に並ぶ。
- 全員が集まり、芋掘りの方法を聞いてから気持ちを合わせて、さつまいもの収穫を始める。
- さつまいものつるを見つけて引っ張り抜く。
- つると一緒に掘り出せない場合は、土を深くまで掘ったり、友達と協力したりして、再度さつまいもを収穫する。
- 収穫したさつまいもの匂いをかいだり、大きさを比べたり、形を見立てたりするなどして友達と伝え合いを楽しむ。
- グループごとに片付けを行い、終わったグループは全体の片付けを手伝う。



## 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の表れ

- 友達と協力して、さつまいもを収穫することを楽しんだ。  
(自然との関わり・生命尊重) (協同性)
- 収穫する際のさつまいもや葉、茎、土の感触や匂い、さつまいもの固さや大小や重い軽い・形などの違いを感じた。  
(自然との関わり・生命尊重) (豊かな感性と表現)  
(数量や図形、標識や文字などへの関心)
- 順番を待ったり、みんなで協力して片付けたりした。(協同性) (道徳性・規範意識の芽生え)



## 基となる事例を活用しての成果

- 畑が近くにはない園であっても、工夫次第で園内に栽培環境を整えることができ、自然に触れたり、自然の変化を感じ取ったりするなど、植物への関心を高める取組となった。
- さつまいもについて、絵本で紹介してから収穫する活動の流れによって、子供たちはみんなで育てたさつまいもの収穫への関心が一層高まり、さつまいもの大きさや形や感触、土やさつまいもの匂いなどを感じることができた。
- 土の中からさつまいもを見つけたり、友達とさつまいもの大きさや重さを比べたりしながら収穫の喜びや達成感を味わうことができた。
- 自分たちで育て、収穫したさつまいもで作られたご飯、サラダ、味噌汁などの給食を食べることを通して、友達と一緒に食べる喜びを味わったり、調理してくれた方に感謝の気持ちをもったりすることができた。

